

## 博多老舗ものがたり

「ハダ工芸社」篇（後編） ◎お聞きした方：代表取締役 波田 英次さん

「ジャパネットたかた」や「NHKのど自慢」のセット、九州国立博物館の看板や文化催事、そして御供所町のもち吉の店舗設計・施工など、私たちが良く目にする数々のシーンを手掛けているハダ工芸社。創業六十年を間近に控えるこの老舗企業の二代目社長・波田英次氏に、創業から高度成長期までを二回に亘ってお聞きした。最終回は、今日までを伺おう。

看板屋から創業して博覧会等のイベントディスプレイ、お店の内外装、と業態を少しずつ広げてきましたが、最初は失敗もしたんですよ。初めて百貨店の内装を手がけた時でした。それまで、町の電器屋さんなどの店舗しか実績がなかったので張り切ったのですが、デザインは凝ってるし、什器などは今まで作ったものと全く違うし。結局出来が悪くて、全部作り直しになり、大きな痛い出費となりました。普通の経営者だとそこでもう懲りて「内装を手掛けるのはやめよう、看板屋一本でいこう」となると思うんですが、父は「最初に勉強できて良かった、次こそいいものを作ろう！」と（笑）。結果的に、今では我が社の売上の半分は内装業が占めているので、このときの決断が間違ってたかかったということですけどね。

私自身は東京の同業者で五年働いた後、二十七歳のときに福岡に戻ってきて四十歳で社長を継ぎました。東京にいた時代、たまたま某PCメーカーの展示会担当をしていたので、パソコンの知識は他の人よりはありました。当時はまだウィンドウズもマックもない時代。コンピューターは温度管理できる部屋に置いていたような時代です。弊社は東芝さんと付き合いがあったのでPCもいち早く購入していたのですが、使える社員がいない（笑）。ということでは

幾分か知識のあった私がデータベースソフトや経理ソフトなどを導入し、社内のシステム化を進めました。その後八九年頃デザイン室にパソコンの導入をしました。デザイン用のパソコンなんて福岡にはなく、東京から購入したのでおそらく九州の同業者の中では最も早かったのではないのでしょうか。それまでの技術と知識を持つ熟練のデザイナーからは嫌がられるだろう、と内心思っていたのですが、チーフデザイナーが導入を決めた瞬間、さっさと自分の机から製図版を片付けてしまいました。これには感動しました。未だに忘れられない光景です。会社がこれからの方針を定めたことを、一瞬で理解して受け入れてくれたのです。チャレンジマインドを持った社員たちに支えられていることを、改めてこの時感じました。

テレビのセットや店舗の内装、博物館や百貨店などでの文化催事、この町のにぎわいを支える仕事に数多く携われていることを心から誇りに思います。大濠花火大会の設営や看板も昭和四十二年からずっと請け負っています。どんなの花バスも花電車の頃から。時代に合わせて手掛けるものは変わってきましたが、やっている仕事はずっと首尾一貫して同じなんです。

近年では情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格「ISO27001」や、環境マネジメントシステム「エコアクション21」などを取得して、さらに時代に即した経営を目指しています。これからも、微力ながらこの町の発展を支える一助を担っていききたいと思っています。

(終)



■株式会社 ハダ工芸社  
 住 中央区草香江2・2・20  
 ☎ 092・771・1181